

現代福祉学部

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022年度大学評価結果総評】(参考)

現代福祉学部は、社会のウェルビーイングの実現を教育理念として、その達成に向けて教員が一致協力し合い努力する姿勢が強く感じられ、高く評価できる。社会に貢献する高度職業人養成のために、少人数教育によるきめ細かな指導を行い、実習、研修、インターンシップ、ゼミなどを通じて、地域社会に学び、同時に地域社会に貢献している。2021年度は COVID-19 の感染拡大という悪条件に見舞われたために、国際的な活動は大幅に制限され、対面や現地での活動も制限されることになったが、その中でも工夫をこらして教育活動が行われた。これは教職員の高い意欲に基づくものと評価できる。さらに、少人数教育や実習、研修などは、ともすれば、内容や進度がクラスによりバラバラになりがちであるが、教員間の情報共有が積極的に行われ、教育レベルの標準化が担保される体制が出来上がっている。現代福祉学部の特徴として、年3回開催されるウェルビーイング研究会が各教員の研究成果の共有やFDの場として有効に機能しており、これにより教員相互の意識共有が強化されていて、高く評価できる。

現代福祉学部のこうした不断の努力が学部としての教育レベルを高めていることは疑いないが、今後はさらにこの成果の情報発信を進めることが期待される。それにより、優秀な学生の確保や地域貢献の機会が高まると思料され、期待したい。

【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

少人数教育や実習、研修などで教員が情報共有を積極的に行っていること、それによって教育レベルの標準化を担保している点を評価して頂けた。2022年度も同様の体制を維持して教育活動を行った。

教育課程(特に授業)について、学生のモニタリング調査を通して明らかになった課題への対応策の早期実施が評価委員会から期待された。2022年度は執行部を中心として個々の問題点を確認し、改善することができた。

2021年度に3回ウェルビーイング研究会を開催したことを評価して頂いたが、2022年度は COVID-19 の感染拡大が続いたものの、授業形態(対面を原則とする)と受講生への特別配慮方針が確定したため、FD研修会の開催を2回とした。一方、専門家を招いて学部としてハラスメント防止と教育開発・学習支援に関するSD・FD研修会を開催し、教育力の向上に努めた。

評価委員会から情報発信に関する指摘を受けた。現代福祉学部には福祉系、地域系、心理系の分野があり、2021年以前に心理系と地域系の広報動画を公開してきたが、2022年度は福祉系の広報動画を公開し、3領域の広報動画を揃えることができた。また、現代福祉学部を紹介するパンフレットを全面的に見直し、専門業者の意見を参考として受験生へ豊富な情報を提供できるパンフレットを作成した。今後も継続して現代福祉学部の魅力、特長を発信していきたい。

現代福祉学部の教育理念の実現を目指し、国内外を問わず、福祉、地域、心理の領域における現代社会の課題に的確に対応できる人材を養成できるよう今後も努力を重ねていきたい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

(1) <福祉コミュニティ学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(社会福祉学)」

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

を授与する。

1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。
3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、社会福祉・地域づくりの学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。
4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。
5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職や地域住民などと協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。

(2) <臨床心理学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(臨床心理学)」を授与する。

1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。
3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、臨床心理の学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。
4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。
5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職と協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。

1. 1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。

はい

1. 1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。

はい

【根拠資料】

法政大学ホームページ ディプロマポリシー

(URL: <https://www.hosei.ac.jp/gendai/fukushi/shokai/policy/diploma/>)

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1. 2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を記入してください。

(1) <福祉コミュニティ学科> 学士(社会福祉学)

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、社会福祉・地域づくりに関する専門教育科目を置いている。
3. 専門教育科目では、ソーシャルポリシー分野・コミュニティマネジメント分野・ヒューマンサポート分野の3つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。
4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。
5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割や

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

地域住民の活動を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。

6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。

(2) <臨床心理学科> 学士（臨床心理学）

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、臨床心理に関する専門教育科目を置いている。
3. 専門教育科目では、臨床心理分野、教育・社会心理分野、認知・学習心理分野、精神保健・福祉分野の4つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。
4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。
5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。
6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。

1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。

はい

1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。

はい

【根拠資料】

法政大学ホームページ カリキュラムポリシー

(URL : <https://www.hosei.ac.jp/gendai/fukushi/shokai/policy/curriculum/>)

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。

はい

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。

はい

1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。

はい

1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。

はい

1.4④学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。

はい

1.4⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。

はい

1.4⑥シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を

はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

確保していますか。	
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 履修の手引き ・履修ガイダンス 配付資料 <ul style="list-style-type: none"> 新1年生ガイダンス（両学科共通） 福祉コミュニティ学科新2年生ガイダンス 臨床心理学科新2年生ガイダンス 新3年生ガイダンス（両学科共通） 新4年生ガイダンス（両学科共通） SSI 新入生ガイダンス（両学科共通） 留学生新入生ガイダンス（両学科共通） ・法政大学ホームページ ガイダンス資料 （URL：https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20230215091353/） ・履修相談会開催案内 ・履修相談会ラーニングサポーターおよび担当教員への通知文書 ・シラバス ・シラバス作成ガイドライン ・シラバス第三者確認用関連文書・資料 ・成績不振学生等への対応基準および対応報告書 ・受講者名簿 ・語学のクラス編成通知文書 ・専門演習 IA・IB 選考会案内および担当教員への通知文書 ・授業改善アンケート結果 ・大学評価室による学生調査結果 ・学生モニタリング調査の報告（執行部会議資料） ・教授会議事録 ・教務委員会資料 	

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 履修の手引き ・履修ガイダンス 配付資料 <ul style="list-style-type: none"> 新1年生ガイダンス（両学科共通） 福祉コミュニティ学科新2年生ガイダンス 臨床心理学科新2年生ガイダンス 新3年生ガイダンス（両学科共通） 新4年生ガイダンス（両学科共通） SSI 新入生ガイダンス（両学科共通） 留学生新入生ガイダンス（両学科共通） ・法政大学ホームページ ガイダンス資料 （URL：https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20230215091353/） 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

3/)

- ・シラバス
- ・シラバス作成ガイドライン
- ・現代福祉学部出講案内（成績評価について、成績評価「S」の評価割合について）
- ・現代福祉学部 試験・成績評価について
（URL：<https://www.hosei.ac.jp/gendai Fukushi/info/article-20220701094943/>）
- ・法政大学ホームページ 試験・成績評価について
（URL：https://www.hosei.ac.jp/application/files/8116/5689/9191/2022test_s.pdf）
- ・成績調査願
- ・成績分布（GPA・GPCA集計資料）
- ・授業改善アンケート結果
- ・大学評価室による学生調査結果
- ・学生モニタリング調査の報告（執行部会議資料）
- ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習 実習の手引きおよび報告書
- ・心理実習の手引きおよび報告書
- ・基礎演習Ⅰのクラス間共通プログラムに関するメモ
- ・既修得単位の認定状況に関する資料
- ・実習委員会資料

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。

（2 学科共通）

（1）＜福祉コミュニティ学科 学士（社会福祉学）

1. 入学段階において、各種入学試験における成績、調査書等の記載内容、面接結果、英語プレイスメントテスト、新入生アンケート調査等を用いて、アドミッション・ポリシーで求める能力・意欲が身についているか測定を行う。
2. 導入教育段階において、学生による授業改善アンケート調査や基礎演習等の導入教育、少人数教育やアクティブラーニングの場での取り組みと成果等を用いて、ウェルビーイングを理解するための幅広い知識と技能が身についているか測定を行う。
3. 専門教育段階において、学生による授業改善アンケート調査や社会福祉・地域づくり・臨床心理の学外実習、現代福祉学部海外研修等の活動と成果等を用いて、ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルが身についているか測定を行う。
4. 卒業段階において、卒業生アンケート調査や卒業論文、単位修得状況、成績評価等を用いて、社会福祉・地域づくり・臨床心理の学問領域の視点・研究方法を用いて考察する力が身についているか測定を行う。

（2）臨床心理学科 学士（臨床心理学）

1. 入学段階において、各種入学試験における成績、調査書等の記載内容、面接結果、英語プレイスメントテスト、新入生アンケート調査等を用いて、アドミッション・ポリシーで求める能力・意欲が身についているか測定を行う。
2. 導入教育段階において、学生による授業改善アンケート調査や基礎演習等の導入教育、少人数教育やアクティブラーニングの場での取り組みと成果等を用いて、ウェルビーイングを理解するための幅広い知識と技能が身についているか測定を行う。
3. 専門教育段階において、学生による授業改善アンケート調査や社会福祉・地域づくり・臨床心理の学外実習、現代福祉学部海外研修等の活動と成果等を用いて、ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルが身についているか測定を行う。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

4. 卒業段階において、卒業生アンケート調査や卒業論文、単位修得状況、成績評価等を用いて、社会福祉・地域づくり・臨床心理の学問領域の視点・研究方法を用いて考察する力が身につけているか測定を行う。	
1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6④学習成果を可視化していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習成果を把握（測定）する方法 法政大学ホームページ 学習成果を把握（測定）する方法 (URL : https://www.hosei.ac.jp/application/files/9815/8563/7330/10_.pdf) ・ 法政大学ホームページ TOEIC L&R IP の受験案内 (URL : https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/important/article-20220126084606/) ・ TOEIC L&R IP 試験実施調査結果 ・ 教授会議事録 ・ 教授会資料（英語検定試験成績による言語コミュニケーション科目の単位認定判定資料） ・ 成績分布（GPA・GPCA 集計資料） ・ 成績優秀者名簿 ・ 進級・卒業審査資料 ・ ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習報告書 ・ コミュニティマネジメント・インターンシップ／リサーチ報告書 ・ 心理実習報告書 ・ 卒業論文テーマ一覧 ・ 卒業論文集（ゼミ単位） ・ 卒業論文発表会（ゼミ単位）開催報告 ・ 国家試験合格者データ ・ 授業改善アンケート結果 ・ 大学評価室による学生調査結果 ・ キャリアセンター卒業生進路先データ 	

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（入学前アンケート・1年生アンケート・卒業生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバス ・ 教授会配付資料（諸アンケートに関する学部長会議報告） ・ 学生モニタリング調査の報告（執行部会議資料） ・ 大学評価室による学生調査結果（授業改善アンケート学部基本集計・全学集計結果報告書） ・ 現代福祉学部説明会配付資料 	

(2) 特色・課題

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。

【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。

【教育課程・教育内容】

- ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証
- ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供
- ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）
- ・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成
- ・初年次教育・高大接続への配慮
- ・学生の国際性を涵養するための教育内容の提供
- ・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施

特色	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）
----	---

現代福祉学部は、社会福祉や臨床心理など、高い専門性を有する高度職業人の養成を大きな目標としている。この目標を達成するために、以下に示す2学科共通の科目群を設けて教育課程を体系化し、関連学問分野を基礎から応用へ着実にステップアップするためのカリキュラム編成としている。

科目内容と専門性の高さ、科目間の関連性等からすべての科目について標準履修可能年次を示し、学習の順次性を確保している。

専門科目は2学科の専門性をそれぞれ高める科目により構成され、総合教育科目（言語コミュニケーション科目を含む）は教養教育を目指す科目により構成されている。

- ・専門教育科目
 - 演習・実習系科目
 - 専門基礎科目
 - 専門基幹科目
 - 専門展開科目
 - 福祉コミュニティ学科：ソーシャルポリシー分野、コミュニティマネジメント分野、ヒューマンサポート分野
 - 臨床心理学科：臨床心理分野 教育・社会心理分野、認知・学習心理分野、精神保健・福祉分野
- ・総合教育科目
 - 学部共通科目
 - 視野形成科目
 - 情報・調査系科目
 - 言語コミュニケーション科目
 - 第一言語群
 - 第二言語群

2学科共通の初年次教育としては基礎演習Ⅰ・Ⅱがあり、クラスによって進度や内容にばらつきが生じないように担当教員で授業内容を共有する努力がなされている。2年次からは実習に向けた演習科目が選択可能であり、3年次と4年次では実習科目が配置されている。これにより、低年次で学習した知見を、高年次では現場で応用することができ、総合的判断力を備えた豊かな人間性が涵養される。

カリキュラム体系を定期的に見直し、継続的な改善を進めており、2021年度から新カ

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

リキュラムが適用されている。また、国家試験（福祉コミュニティ学科：社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理学科：公認心理師）の受験資格を満たすための科目を設けているので、制度改革に合わせてカリキュラムを見直してきた。	
【教育方法】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等） ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等） 	
特色	授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）
<p>シラバスについては、すべての授業を対象としたシラバス内容の第三者確認を教務委員会が行っている。</p> <p>より良い授業を行うため教員の授業相互参観が行われ、その内容が教授会で共有されている。</p> <p>執行部と学生との対面によるモニタリング調査を行い、授業内容と方法等について抽出された課題と学生への回答および対応を教授会へ報告している。執行部により特に改善が必要とされた科目については、学生のコメントを授業担当者へ伝えて事実関係を確認し、改善を求めた。</p>	
【学習成果】	
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。 ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み ・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み 	
特色	成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用
<p>実習科目においては担当教員と実習委員会の合意に基づいて成績評価が行われており、適切かつ厳正な評価が行われていると判断できる。</p> <p>また、科目間で成績評価の割合に極端な差が生じないように、成績評価「S」の割合については、全学のガイドラインに加え、科目群ごとに現代福祉学部独自のガイドラインを導入して、その上限を設定している。</p>	
その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
<p>1 年生を対象として少人数の演習形式で行う基礎演習Ⅰ・Ⅱを開設し、大学における学習の視座、方法や技術に関する初年次教育を実施している。授業内容および指導方法や進め方の向上を目的に、春学期と秋学期に基礎演習担当者懇談会（メールでの情報共有を含む）を実施し、クラス間で授業の進め方に大きな差が生じないように配慮している。基礎演習Ⅱ（秋学期）では、学生のモチベーションおよびリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目的としてグループワークを行い、成果発表の場として「基礎ゼミコンペ」を実施している。</p> <p>2 学科における実習・インターンシップ科目は、座学で得た知識・技術・価値を実際の現場との連携によって実践的に修得し、問題解決能力や実践力を身につけることができる授業形態としている。それらの学びは、年度末に実習報告書としてまとめている。また、福祉コミュニティ学科では「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」において、学生による実習報告会を開催している。さらに、実習施設の実習指導者を招き、実習実施体制等の振り返りを行うとともに、社会福祉士養成教育の在り方について懇談会を実施している。</p>	
課題	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

2 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を記入してください。

<福祉コミュニティ学科>

【入学前に備えているべき能力】

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
4. 少子高齢化、子どもの貧困問題、地域間格差拡大、心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
5. 積極的に他者と関わり、実践を通じた学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- ・一般選抜(A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試(出願資格型)および大学入学共通テスト利用入試)
基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生
- ・学校推薦型選抜
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生(指定校推薦入試)
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生(付属校推薦入試)
学業とスポーツを両立できる優れた人材(スポーツ推薦入試)
- ・総合型選抜等
まちづくり実践へのモチベーションの高い学生(まちづくりチャレンジ自己推薦入試)
海外高校留学体験に基づく能力、経験および意欲のある学生(グローバル体験公募推薦入試)
国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生(外国人留学生入試前期日程)

<臨床心理学科>

【入学前に備えているべき能力】

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
4. 子どもの発達、対人関係や家族関係の問題や心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
5. 積極的に他者と関わり、実践を通じた学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- ・一般選抜(A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試(出願資格型)および大学入学共通テスト利用入試)
基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生
- ・学校推薦型選抜
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生(指定校推薦入試)
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生(付属校推薦入試)

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

学業とスポーツを両立できる優れた人材（スポーツ推薦入試） ・ 総合型選抜等 海外高校留学体験に基づく能力、経験および意欲のある学生（グローバル体験公募推薦入試） 国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生（外国人留学生入試前期日程）	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学ホームページ アドミッション・ポリシー (URL : https://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/shokai/policy/admission/)	

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。
<p>現代福祉学部のアドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜、学校推薦型選抜として指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツ推薦入試、総合型選抜としてまちづくりチャレンジ自己推薦入試（福祉コミュニティ学科のみ）、グローバル体験公募推薦入試、外国人留学生入試前期日程を実施している。</p> <p>担当教員として学部長と主任に指定されているスポーツ推薦入試を除き、現代福祉学部が書類選考と面接を実施する選抜においては、教務委員に加え、各選抜に適する教員を配置している。それと同時に、教員の専門分野のバランスが取れるように面接委員を配置し、公正な実施を心掛けている。</p> <p>査定の際には、担当教員が各自の査定結果を報告し、担当教員間で意見交換を行い、公平性を保てるよう努めている。</p>

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	はい
---	----

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表1

学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①学部の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

本学部は、社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしており、ウェルビーイングを軸として福祉社会に関わる組織や制度をマネジメント（経営・調整・改善・拡充）、プランニング（企画・立案）する知識、および対人援助に関わる幅広い臨床的スキルを系統的・総合的に学べるようなカリキュラム構成となっている。

そのための教員組織として、政策系、臨床系それぞれの領域の国内外の研究を専門領域とし、かつ特に政策科学と臨床科学を統合したフィールドワークを重視していることから、学生の間人教育と地域社会のさまざまな主体とつながり、関わり合いながら解決の道筋を導き出す教育を重視する教員で構成している。

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①学部の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	
<p>コミュニティをベースとしつつ、社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系性に鑑み、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成がなされている。</p> <p>特に専門教育としての専門展開科目では、福祉コミュニティ学科においては、＜ソーシャルポリシー分野＞として社会保障政策、環境政策、地方自治、海外協力などのマクロレベルの政策・法制度、＜コミュニティマネジメント分野＞としてソーシャルイノベーション、エリアマネジメント、災害・人権支援等メゾレベルの地域・福祉の組織化、＜ヒューマンポート分野＞として高齢者・児童・障害者等の対象別福祉論、当事者支援、メンタルヘルス、各種心理学等ミクロレベルの対人援助技術の3分野からの幅広い科目を提供し、それぞれ専門の教員を配置している。</p> <p>また臨床心理学科では、＜臨床心理分野＞として医療・産業領域と深く関わる各種心理学・療法、＜教育・社会心理分野＞として学校、司法、異文化等の心理学、＜認知・学習心理分野＞として、心理学研究法、認知心理学、心理測定法等、＜精神保健・福祉分野＞として、ソーシャルワーク、精神保健学、関係行政論等の4分野からの幅広い科目を提供し、それぞれ専門の教員を配置している。さらに、これらの知識・技能を基盤として理論と実践を統合させるための実習やインターンシップによる現場教育を充実させることができる教員を配置している。</p>	

3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則 ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則 ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格 ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

・ 規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程

3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①学部（学科）内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
<p>ウェルビーイング研究会において、職場・組織内の環境改善とともに学生支援のための教職員の資質向上を図っている。また、学生支援においては、必要に応じて多摩学生相談室カウンセラーからのコンサルテーションを受け、学部として共有し、組織的な支援体制の強化につなげている。</p> <p>ウェルビーイング研究会</p> <p>■ 第1回</p> <p>日時 2022年6月25日（土）15:00～17:00</p> <p>会場 法政大学市ヶ谷キャンパスゲート棟 4階 G401+オンライン</p> <p>テーマ 授業の配慮申請からみるここ1～2年間の学生状況について 学生相談室カウンセラーからの情報をもとに～</p> <p>参加人数 37名 （内訳）オンライン参加25名：専任教員16名、院生8名、専任職員1名 直接参加12名：専任教員10名、院生1名、兼任職員1名</p> <p>各種FD研修</p> <p>研究倫理研修</p> <p>日時 2022年10月5日（水）15:30～16:00</p> <p>会場 法政大学現代福祉学部棟 3階第1・2会議室</p> <p>テーマ 「学習支援システム（学習支援システムを活用する感染症に関する授業欠席等配慮願の提出方法について）と剽窃チェックソフト（Turnitin）」</p> <p>講師 教育支援課</p> <p>参加人数 21名</p> <p>ハラスメント防止研修</p> <p>■ 第1回</p> <p>日時 2022年11月9日（水）15:30～16:00</p> <p>会場 法政大学現代福祉学部棟 3階第1・2会議室</p> <p>テーマ 「ハラスメントを疑われないために」</p> <p>講師 小池邦吉弁護士</p> <p>参加人数 21名</p> <p>■ 第2回</p> <p>日時 2023年1月11日（水）15:30～16:00</p> <p>会場 法政大学現代福祉学部棟 3階第1・2会議室</p> <p>動画視聴 「法政大学ハラスメント防止・対策規程改正について」</p> <p>参加人数 22名</p>	
3.4③学部（学科）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- ・研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化促進を目的として、「自由を生き抜く実践知」、「KANDAI×HOSEI SDGs」、「アクションプランコンテスト」等への応募を促進するために教授会でアナウンスを行い、本学部で受賞された取り組みについて報告・共有している。
- ・ウェルビーイング研究会において、学部内外の教員の研究成果や社会活動について発表し、資質向上を図っている。

ウェルビーイング研究会

■ 第1回

日時 2022年6月25日(土) 15:00～17:00
 会場 法政大学市ヶ谷キャンパスゲート棟 4階 G401+オンライン
 テーマ1 新任教員の研究報告
 講師 小林由佳准教授「働く人と組織の well-being の実現をめざして-職場環境、リーダーシップからのアプローチ」
 岩田千亜紀助教「パターンリズムから当事者主権、権利を基盤としたソーシャルワーク支援を目指して-発達障害の母親への支援・障害のある性暴力被害者支援の研究を中心に-

参加人数 37名
 (内訳) オンライン参加 25名: 専任教員 16名、院生 8名、専任職員 1名
 直接参加 12名: 専任教員 10名、院生 1名、兼任職員 1名

■ 第2回

日時 2023年3月15日(水) 15:30～16:00
 場所 法政大学多摩キャンパス 現代福祉学部福祉 301教室
 テーマ 宮城孝教授「日本の福祉社会における長期的リスクとレジリエンスの視座」

参加人数 27名
 (内訳) オンライン参加 8名: 専任教員 5名、学生 3名
 直接参加 19名: 専任教員 18名、学生 1名

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。

【学生支援】

- ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育
- ・学生の自主的な学習を促進するための支援
- ・学習の継続に困難を抱える学生(留年者、退学希望者等)への対応
- ・成績不振の学生の状況把握と指導
- ・外国人留学生の修学支援
- ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮(相談対応、授業計画の視聴機会の確保等)

特色	学生の自主的な学習を促進するための支援
----	---------------------

・少人数教育のメリットを活かした相談支援体制
 各教員のオフィスアワーに加え、専門演習や基礎演習、実習担当クラスなどの少人数クラスにおいても各教員が学生の相談に応じるなど、学生にとって相談しやすい体制を整えている。また、必要に応じて事務課とも情報を共有し、学生の生活面と学業面の両面を支えるべく取り組んでいる。

- ・現代福祉学部国内研修奨励金給付制度
 学生が国内の様々な現状に接し、今後の学業に活かすための「現代福祉学部国内研修

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

奨励金給付制度」を運用している。個人、またはグループで学生自ら企画・立案した視察、調査の実施にかかる費用の一部（交通費、研修費）を給付して、国内のフィールドワークをバックアップしている。申請期間を二期にわたって設定し、より多くの学生が活用できるようにしている。これにより 2022 年度は、第一期では 3 件、第二期では 2 件が採択され、研修後の報告書提出が行われた。

・和ちゃん奨学金

現代福祉学部有缘のある天野教之氏、天野美子氏ならびに天野高見氏のご寄付により創設された、現代福祉学生のための給付型奨学金制度「和ちゃん奨学金」により、現代福祉学部 2 年次～3 年次に在籍する障がい者福祉に強い関心を有する学生に対し、経済的支援を行っている。対象者は若干名、給付金額は 15 万円、給付期間は 1 年間であり、テーマ「これからの障がい者福祉に求められるものを、自らの経験に基づいて論じなさい」のレポートに基づいて第一次選考：書類審査、第二次選考：面接の結果を総合的に判断し採用者を決定している。本奨学金採用者は、翌年度の当該奨学金出願期間内に「奨学金受給後の学業や取り組んだ事について -障がい者福祉との係わりで-」というテーマのレポートを提出することが義務づけられており、これにより、年間を通しての活動内容と奨学金と勉学が有効に活用されているかどうかを確認することができる。2022 年度は 2 件の応募があり、レポートによる選考の結果、いずれも採用されている。

・法政大学現代福祉学部海外研修

本研修は、海外福祉先進国の現状や取り組みを実体験し、参加学生の国際的視野を広げるだけでなく、それらの体験が「福祉、臨床心理、地域づくりを学ぶ」ための糧となり、参加した学生の学習・研究意欲向上、そして学部全体へのフィードバックを期待するものとして設置された。募集人数は 2 年次を中心に、30 名、引率教員は 2 名としている。実施期間は、夏季休暇中の概ね 7～8 日間。参加者には、旅行代金の上限 60%、最大 20 万円を奨励金として給付している。これまでは、福祉先進国であるスウェーデンにおける福祉・心理的問題への支援制度、地域づくり、心理士資格者の職責、インクルージョン、移民の受け入れや教育をテーマとして挙げ、同時に学生が主体的に参画できる形で研修視察を実施し、帰国後には事後学習として報告書を作成する。コロナ禍により 2020 年度から 2022 年度までの 3 年間は延期が続いているが、2023 年度は実施する方向で検討を行う。

その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。

特色

各教員のオフィスアワーに加え、クラス担当の教員が個々の学生の相談に応じるなど、現代福祉学部は各学生の状況確認が行いやすい環境にあり、学業面や生活面で問題を抱える学生には、比較的早い段階で対応することができている。また、成績不振な学生については、全学的には年に一度学生を把握し、面接等の指導をする機会を設定しているが、本学部はさらにもう 1 度回数を増やし、前回指導からの変化を把握できるようにしている。

課題

成績不振者は問題を一人で抱え込んでしまい、指導が容易でない場合も多い。これは現代福祉学部に限らず大学全般に見られる傾向であるが、少人数教育のメリットを生かした相談体制や多摩学生相談室、障がい学生支援室との連携など、現代福祉学部としてのさらなる対応策の必要性も認識されている。

5 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①学部として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会議事録 ・現代福祉学部履修の手引き ・事務課によるガイダンス資料 	

Ⅲ 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。	
年度目標	①2021 年度のカリキュラム改定を反映した新たな広報内容を検討し発信する。 ②教員や学生の様々な活動やメッセージを学部ホームページ等オンラインメディアで頻度よく発信していく。 ③オンライン媒体を活用した広報に向けて、学生有志とともに戦略を練り直す。	
達成指標	①2021 年度のカリキュラム改定を反映した新たなパンフレットを作成する。 ②広報用動画を作成した上で、学部ホームページを基軸に広報活動を行う。 ③ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等も含め、学生有志の協力を得ながら、受験生目線の広報活動を行う。 ⑤広報のあり方について、卒業生の意見を収集する機会を設ける。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①従来の広報用学部パンフレットの内容を見直し、2021 年度のカリキュラム改定を反映した新たなパンフレットを作成した。 ②広報用動画を作成し、学部ホームページで公開した。 ③学生有志との検討を十分に行うことができなかった。 ④オープンキャンパスや附属高校での説明会等において学生の協力を得て広報活動等を行った。 ⑤同窓会との連携活動を行っているが、広報活動に関して卒業生からの意見収集が十分とは言えない。
	改善策	今年度と同様の広報活動を継続するとともに、在校生および卒業生から広報活動に関する意見を収集する機会を増やし、広報の在り方を検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	長年の懸案事項であった学部パンフレットの刷新改訂や広報用動画の作成を実施したことは高く評価できる。
改善のための提言	今後は、学生あるいは受験生目線に立った広報内容・媒体のさらなる検討が望まれる。また、新入生アンケートで本学部に着かれた点を調査・確認するとともに、同窓会にも広報活動への協力支援を求めると良いであろう。	
評価基準	内部質保証	
中期目標	継続的な内部質保証を実現するための PDCA サイクルを充実させる。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	①質保証委員会と学部執行部による着実な PDCA サイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD 改善に向けた研究会の内容について検討する。	
達成指標	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初、春学期終了時、年度末の 3 回行う。 ②ウェルビーイング研究会を年 3 回開催し、そのうち 1 回以上は FD 改善のための意見交換を行う。 ③新型コロナウイルス感染症に関するような緊急対応が要請された際の質保証委員会の役割について検討し、定める。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初と年度末に行った。 ②ウェルビーイング研究会を 2 回開催し、そのうち 1 回はコロナ禍からの移行期における学生支援について意見交換を行った。 ③さらに、研修会として、ハラスメント室員および弁護士を招いた対面によるハラスメント研修会と、動画を用いたハラスメント研修会を実施した。 ④緊急対応が要請された際の質保証委員会の役割について検討したが、具体的な内容を定めるまでには至らなかった。
	改善策	今年度と同様に研究会と研修会を開催する。 2022 年度以上に質保証委員会との連携を深め、緊急対応の発生に備える。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究会と研修会を積極的に開催して、FD 改善に向けて努力されたことは評価できる。
	改善のための提言	達成指標にあるように、年度途中で質保証委員会と執行部とで年度目標の達成状況の確認を行うことが望まれる。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	2021 年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。	
年度目標	①2021 年度からスタートした新カリキュラムについて、モニタリングを行う。特に、言語コミュニケーション科目や SW 指定科目の再編に注目して調査する。 ②専門演習 IA・IB の選考方法の変更について検討し、今後の選考方法の在り方を検討する。	
達成指標	①新カリキュラムに合わせてカリキュラム・マップやツリーを適切に改定する。 ②学生へのモニタリング調査を秋学期に実施し、明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。 ③専門演習 IA・IB の選考方法について、教職員の意見を聴取して、次年度以降の進め方を検討し、決定する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①新カリキュラム・マップとツリーについて検討し、特に改定の必要性のないことを確認した。さらに、大学ポートレートを確認し、一部を変更した。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

告		<p>②学生へのモニタリング調査を行い、その結果を教務委員会・教授会で共有し、授業改善策を検討した。また、一般学生から得た意見聴取の内容に基づいて、執行部を中心として授業担当者との間で意見交換を行い、授業改善を行った。</p> <p>③専門演習 IA・IB の選考方法について、教員の意見を聴取した上で教授会懇談会を開催し、選考会の進め方を決定した。</p>
	改善策	学生へのモニタリング調査を活用して授業の改善策を検討する。専門演習 IA・IB の選考方法について教員へ意見聴取を行い、さらなる改善を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生へのモニタリング調査ならびに教員へのアンケート調査により、新カリキュラムと専門演習の選考プロセスを検証していることは高く評価できる。
	改善のための提言	専門演習の選考プロセスについて、今年度同様に絶えず改善を重ねていくことが望まれる。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。	
年度目標	<p>①2021年度から導入されたハイフレックス型授業も含め、オンラインによる講義形態と教室での対面授業についてそれぞれの長所と課題について検証を行う。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症拡大に対応したゼミでの活動、実習、インターンシップの展開についてその実態把握を行う。</p> <p>③国際的な視点からの実践活動、研修活動の実現に関して検討する。</p>	
達成指標	<p>①オンラインによる各種授業形態と対面授業とを比較するための教員向けアンケート調査を実施する。</p> <p>②実習、インターンシップにおける実施内容について教務委員会ならびに実習調整委員会において実態を把握する。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症拡大下での各ゼミの活動の対応について実態を把握し、今後の教育方法について検討を行う。</p> <p>④国際的な研修活動の実現に向けて検討を行う。</p>	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<p>①一年間を通して対面授業を原則としたため、各種授業形態と対面授業とを比較するための教員向けアンケート調査を実施しなかった。</p> <p>②ソーシャルワーク実習、インターンシップにおける実施内容について担当教員の間で、また実習委員会において実態を把握し、ソーシャルワーク実習に関しては実習施設の担当者を交えた実習指導者意見交換会を開催した。心理実習の在り方について、担当教員と実習施設の担当者との間で検討を進めた。</p> <p>③対面授業が原則となり、新型コロナウイルス感染症拡大下での各ゼミの活動に関する実態調査は不要と判断した。</p> <p>④コミュニティマネジメント・インターンシップを海外（ベトナム）で実施した。</p>
	改善策	今年度に並ぶあるいはそれ以上に充実した実習を実施するとともに、学生の国際的な活動をコミュニティマネジメント以外の領域へ広げる学修環境を検討する。
	質保証委員会による点検・評価	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	所見	実習教育において、報告会ならびに意見交換会を継続して開催していることは高く評価できる。
	改善のための提言	国際的な活動を充実させる点で、海外研修のプログラムの検討に着手することも検討に値する。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
	年度目標	①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。 ④語学、日本手話言語等などの新規開講科目の学習成果を把握する。
	達成指標	①各実習の報告書と報告会開催について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に学部内で10本投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。 ⑤各ゼミの学習・活動報告会を開催する。 ⑥優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを学部内で表彰する。 ⑦新規開講科目の学習成果や満足度等を、授業改善アンケートとモニタリング調査を通して把握する。 ⑧3領域（福祉、地域、臨床心理）横断的な研究教育のあり方を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①福祉コミュニティ学科では実習クラスごとに、臨床心理学科では全体のクラスをまとめた報告書を作成し、報告会を開催した。 ②卒業論文報告会・発表会の開催実態を調査し、教授会で結果を共有した。 ③5編（目標は10本）が学内の懸賞論文へ投稿された。 ④各ゼミが応募した学内外のコンペ等の受賞結果とその内容をホームページで報告した。 ⑤ゼミ単位で学習・活動報告会を開催した。 ⑥成績最優秀者には表彰式を開催し、その様子をホームページで紹介した。 ⑦学生へのモニタリング調査を行い、学習成果や満足度、さらに授業改善策を検討し、授業改善に努めた。 ⑧3領域の横断的な研究教育の在り方を十分には検討するに至らなかった。
	改善策	3領域（福祉、地域、臨床心理）横断的な研究教育の在り方、現在以上に3領域にまたがって授業を履修できるようカリキュラムを改革できるか検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学内の懸賞論文への投稿ならびに卒業論文発表会や学習・活動報告会の開催に向けて意識が高まっているのは評価できる。
	改善のための提言	資格取得を目指さない学生に対して、他学科の科目履修の機会を提供することの検討に着手してはどうか。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実さ

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	せる。	
年度目標	①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。 ②編入学試験による入学生を確保するための方策を検討する。 ③指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成績等に基づいて検討し、指定校を見直す。	
達成指標	①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果（GPA）の動向について検討協議し、教授会に報告する。 ②「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を継続する。 ③各入試方法別の入学生とともに、効果的な広報手段について検討し、実行する。 ④編入学試験の試験科目について検討する。 ⑤指定校推薦の出願状況、入学者の学習成績等を用いて指定校の適否を判断し、見直す。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①⑤教務委員会において各入試方法別に学習成果（GPA）の動向について検討した上で、指定校推薦の出願状況を加味して指定校を見直した。 ②まちづくりチャレンジ入試運営委員会において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を行い、高校生を対象とする受験説明会を2回開催した。 ③執行部と教務委員会において広報活動について検討し、付属校からの要請に応えた。また、一般高校生を対象とするオープンキャンパスにおいても学部説明会と模擬講義を実施した。 ④編入学試験の試験科目について検討し、変更（外部試験の導入）を行った。
	改善策	一般高校生と付属高校生を対象とする広報活動を継続する。 各入試方法別の在校生とともに、効果的な広報手段について検討し、実行する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	多様な入試方法を提供し、それぞれの確かな広報活動を積極的に行い、入学後の学修成果も木目細かに確認されているのは、高く評価できる。
	改善のための提言	今後さらに、志願者が減っている付属校に対して、本学部の魅力をしっかりと伝えていくことが望まれる。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。	
年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。	
達成指標	①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像を取りまとめ、必要な教員を確保する。	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①他大学の情報を集約するまでには至らなかった。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

報告		②教授会懇談会を3回開催し、現在のカリキュラムと教員構成を確認し、今後の人事の在り方について検討した。4名の新任教員（講師1名、助教3名；2023年4月1日着任）を確保できた。
	改善策	カリキュラム編成とのバランスを踏まえ、空席となっている1名の教員枠を利用して新任教員を採用する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教授会懇談会において、教員配置や教員組織について丁寧に議論され、新任教員を確保されているのは評価できる。
	改善のための提言	空席となっている教員枠を埋めて、教員組織のさらなる充実を図ることが求められる。
評価基準		学生支援
中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。	
年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。 ②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。	
達成指標	①低GPAの基準を引き上げて対象とする学生を拡大し、さらに春学期と秋学期に当該学生への面談を実施することにより、より丁寧な対策を講ずる。 ②ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①低GPAの学生を対象として春学期と秋学期に演習担当教員が面談を行い、学習改善策を検討した。面談ができない学生については保護者へ学生の学修状況を説明した。留級者を対象とした履修相談会を実施した。 ②執行部と教務委員会においてラーニングサポーターによる履修相談の件数と内容を整理し、次年度に向けた計画を立てた。
	改善策	低GPAの学生の学修意欲を高める策を検討し、講ずる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	低GPAへの丁寧な面談、新入生に対するラーニングサポーターによる履修相談が継続されているのは高く評価できる。
	改善のための提言	①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、I9:J16+J11:J16まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。 ②編入学試験による入学生を確保するための方策を検討する。 ③指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成績等に基づいて検討し、指定校を見直す。
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。	
年度目標	①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握する。 ②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	の活動の活性化を図る。	
達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施する。 ②そのアンケート結果をもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③さらに、優れた活動を学部広報を通じて発信していく。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①②ゼミや実習担当教員へのアンケート調査を実施し、個々のゼミ活動や社会貢献・連携活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開した。 ③学内外で表彰されたゼミ活動をホームページを通して学内外へ発信した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	個々のゼミ活動や社会貢献・連携活動を調査し、ホームページで学内外へ発信することが定着したことは高く評価できる。
	改善のための提言	－
<p>【重点目標】 2021年度のカリキュラム改定を反映した新たな広報内容を検討し発信する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度のカリキュラム改定を反映した新たなパンフレットを作成する。 ・広報用動画を作成した上で、学部ホームページを基軸に広報活動を行う。 ・ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ・広報のあり方について、卒業生の意見を収集する機会を設ける。 <p>【年度目標達成状況総括】 学部ホームページの公開情報を更新した上で、従来から計画していた広報用動画を作成し、学部ホームページで公開した。さらに一般高校生および附属高校生を対象とする説明会と模擬講義を実施するなど、執行部において目標達成に必要とした広報活動をほぼ実施することができた。一方、指定校推薦等の特別入試の志願者数は増加傾向もしくは安定した水準にあるが、一般入試の志願者数が2021年度入試からやや減少傾向を示しており、さらなる広報活動の改善を進めるために、在校生と卒業生の意見収集が必要となろう。</p>		

IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。
年度目標	①2022年度に作成した新たな広報媒体の発信方法を検討し、実行する。 ②教員や学生の様々な活動やメッセージを学部ホームページ等オンラインメディアで頻度よく発信していく。 ③オンライン媒体を活用した広報に向けて、学生有志とともに戦略を練り直す。
達成指標	①2022年度に作成したパンフレットを広く配布する。 ②広報用動画を活用してオープンキャンパスや高大連携活動を通して広報活動を行う。 ③ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等も含め、学生有志の協力を得ながら、受験生目線の広報活動を行う。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	⑤ 広報のあり方について、1 年生を対象として本学部に着かれた点を調査・確認する。 ⑥ 同窓会とも連携し、広報活動を行う。
評価基準	内部質保証
中期目標	継続的な内部質保証を実現するための PDCA サイクルを充実させる。
年度目標	① 質保証委員会と学部執行部による着実な PDCA サイクルを運用する。 ② 非常勤講師も交えて、FD 改善に向けた研究会の内容について検討する。
達成指標	① 質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を年度当初、春学期終了時、年度末の 3 回行う。 ② ウェルビーイング研究会を年 2 回以上開催し、そのうち 1 回は非常勤講師を交えて FD 改善のための意見交換を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	2021 年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
年度目標	① 2021 年度からスタートした新カリキュラムについて、モニタリングを行う。特に、言語コミュニケーション科目や SW 指定科目の再編に注目して調査する。 ② 専門演習 IA・IB の選考方法の変更について検討し、今後の選考方法の在り方を検討する。
達成指標	① 新カリキュラムに合わせてカリキュラム・マップやツリーの適切性を確認する。 ② 学生へのモニタリング調査を秋学期に実施し、明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。 ③ 専門演習 IA・IB の選考方法の改善に向け、教員の意見を聴取して、次年度以降の進め方を検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。
年度目標	① 実習、インターンシップの展開について、その実態把握を行う。 ② 国際的な視点からの実践活動、研修活動の実現に関して検討する。
達成指標	① 実習、インターンシップにおける実施内容について教務委員会ならびに実習調整委員会において実態を把握する。 ② 国際的な研修活動の実現に向け、プログラムの検討を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	高い専門性と 3 領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
年度目標	① 各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ② 4 年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③ 専門演習の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。 ④ 第 2 外国語（中国語、ドイツ語、フランス語、日本手話言語等）の学習成果を把握する。
達成指標	① 各実習の報告書と報告会開催について検証する。 ② 卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③ 懸賞論文に学部内で 5 本以上投稿する。 ④ 学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。 ⑤ 各ゼミでの学習・活動報告会を開催する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<p>⑥第2外国語（中国語、ドイツ語、フランス語、日本手話言語等）の学習成果や満足度等を、授業改善アンケートとモニタリング調査を通して把握する。</p> <p>⑦3領域（福祉、地域、臨床心理）横断的な教育のあり方を検討する。</p> <p>⑧他学科の科目履修の機会を増やすことについて検討する。</p>
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。
年度目標	<p>①留学生受け入れの動向や指定校推薦入試、グローバル体験入試、まちづくりチャレンジ入試（自己推薦）などの特別入試による入学生数と学習成果について検討する。</p> <p>②指定校推薦入試における指定校の適否について、出願状況、入学後の学習成績等に基づいて検討し、指定校を見直す。</p>
達成指標	<p>①教務委員会において、各入試方法による入学生の確保と学習成果（GPA）の動向について検討協議し、教授会に報告する。</p> <p>②「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」において、入学者の状況把握や入試広報についての検討を継続する。</p> <p>③各入試方法別の入学生とともに、効果的な広報手段について検討し、実行する。</p> <p>④指定校推薦の出願状況、入学者の学習成績等を用いて指定校の適否を判断し、見直す。</p> <p>⑤高大連携活動を中心として、付属校へ現代福祉学部の魅力、特長を伝える。</p>
評価基準	教員・教員組織
中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
年度目標	①本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
達成指標	<p>①他大学の情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。</p> <p>②学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像を取りまとめ、空席となっている教員枠を活用して必要な教員を確保する。</p>
評価基準	学生支援
中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。
年度目標	<p>①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。</p> <p>②先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年度当初に身近な相談の機会を充実させる。</p>
達成指標	<p>①低GPAの基準を引き上げて対象とする学生を拡大し、さらに春学期と秋学期に当該学生への面談を実施することにより、より丁寧な対策を講ずる。</p> <p>②ラーニングサポーターによる履修相談（相談件数と相談内容）の実績を整理し、次年度に向けた改善課題を検討する。</p>
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めること

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	を通して今後の展開を促す。
年度目標	①学生や教員、またゼミなどにおける社会貢献や社会連帯活動について実態を把握する。 ②それらの結果を学部内に対して発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。
達成指標	①ゼミや実習担当教員へのアンケートを実施し、アンケート結果をもとに、個々の活動を可視可して教務委員会および教授会で公開する。 ②優れた活動を学部内で共有した上で、学部広報を通じて発信していく。
<p>【重点目標】 2022年度に作成した新たな広報媒体の発信方法を検討し、実行する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度に作成した新たなパンフレットを広く配布して、現代福祉学部の魅力と特長を広報する。 ・ホームページ、およびオープンキャンパスと高大連携活動等の中で動画を活用した広報活動を行う。 ・ホームページの充実に向けて、学生有志と検討する。 ・広報のあり方について、卒業生の意見を収集する。 	

【大学評価総評】

<p>現代福祉学部は、昨年度の中期目標設定初年度においてコロナ禍を経験しながらも、各評価項目・基準に関する達成指標への取り組みでは9項目中5項目で「S」評価とされ、全体的な質的保証を損ねることなく実施に至ることができた点は大いに評価できる。本年度の達成指標も昨年度提起された改善への提言に基づき設定されその実効性は大いに期待したい。特に、「教育課程・学習成果」では、高い専門性と福祉系、地域系、心理系の3領域を生かした総合的な学びの実現のための本年度達成指標において具体的な取り組み事項が明示されその意欲的な姿勢は特筆に値する。書面評価だけでなくインタビューの中でも明らかになったことであるが、ウェルビーイング研究会を開催し専任教員と兼任教員とのあいだでの意見交換をおこなっていたり、実習系の科目を持つ学科では実習委員会を通じて問題意識を共有したりするなど、継続的な意見交換の場を設けている点は大いに評価できる。また、学生へのモニタリング調査はその結果を元に改善策を検討し授業改善を行っている点もあるが、執行部レベルで具体的な事案について把握し改善対策を講じており、モニタリング調査からの結果を実際の改善につなげていることも大いに評価できる。</p> <p>また、「学生の受け入れ」に関する現状把握と課題認識においては、各学科において受験前から異なる募集区分に関してそれぞれ求める受験者像が一貫して可視化され、その情報が「理念・目的」での今後の本学部の広報の改善への取り組みにも関連している点も大変高く評価でき、今後の附属校生への広報活動にも期待したい。総じて、本学部の社会のウェルビーイングの実現という教育理念の下、時代や社会の要請に対応するべく地域社会に学び貢献する高度職業人養成を念頭にさらなる達成指標実現に向けた真摯な取り組みに大いに期待したい。</p>

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
Ⅱ自己点検・評価(1)点検・評価項目における現状を確認	
<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。